

厳しい寒さも和らぎ、春の陽気を感じる日が増えてきました。六十九名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心からお祝い申し上げます。

皆さんが高校に入学されてはや三年が経ち、年号も平成から令和に変わりました。

皆さんが特に最高学年としての力を発揮されたのは、やはり稲陵祭ではないでしょうか。今年の稲陵祭では、企画の段階から、感染予防のための様々な制限や制約という壁が何度も私たちの前に立ちはだかりました。その壁を超えるべく、生徒会執行部や委員会、色長、各パートリーダーを中心にアイデアを出し合い、工夫してくださったおかげで、前例にとらわれない素晴らしい稲陵祭になりました。特に ICT を活用することで、ミュージックフェスやリモート講演会、体育祭の応援練習などでできることの幅が広がることを私たちに示してくださいました。その一方で、厳しい暑さの中、屋内外で応援の練習をしたり、外と変わらない蒸し暑さの中でデコレーションを製作したりされるなど、いつもと変わらない光景も見られました。皆さんが奮闘しておられた姿を見て、私たちも今みんなでできることを精一杯やろう、今年しかつukれない稲陵祭をつくろうという気持ちになりました。

部活動では、後輩を気遣ったり丁寧にアドバイスをしながらも、練習から本番のように取り組んで自分の実力を高め、誰よりも大きな声を出して良い部活動の雰囲気を作るその姿勢からは、学ぶものがたくさんありました。練習が終わると雰囲気は一変し、たわいもない話をしたり、ふざけあったりして、無邪気に楽しむ声が響きました。このメリハリがどれだけ大切で、心地よいものかを教えていただいたと思います。引退にあたっての思いを述べられた部活動報告会では、3年間、仲間とともに切磋琢磨してきた充実感、目標を達成することができなかった悔しさ、支えてくれた人たちへの感謝、そして私たち後輩に向けたエールの言葉をいただきました。私たちは、その ゆっくりと力強い言葉の端々から、先輩方の思いを受け取りました。皆さんの姿を間近で見てきた私たちは、意思を受け継ぎ、一・二年生を中心としてチーム作りに取り組んでできました。これからも一丸となって練習や試合に臨んでいきます。

いよいよお別れの時が近づいてきました。現代社会の変化するスピードはより一層早くなり、私たちはそれに対応していかなければなりません。皆さんが生み出す斬新なアイデアや、変化に対応していけるしなやかさは、今まで以上に求められています。この三年間で皆さんはあらゆる経験をされてきました。時には投げ出したくなるほど苦しいこともあったでしょう。それでも立ち上がり、乗り越えてこられました。皆さんが三年間をかけて積み上げてこられたものは、決して成績表やテストの点数に表し切れるものではありません。自然も人も豊かなこの奥出雲での出会いや経験と、それらを通じて全身で身に付けたもの全てが、これから続いていく皆さんの人生を必ず豊かにしていきます。自信を持って、次のステージへ進んでいってください。私達在校生も先輩方の後につき、さらに超えていけるような誇りある横田高校を作っていけるよう励んでいきます。今まで本当にありがとうございました。

最後になりましたが、皆さんのご健康とご活躍を心からお祈りして、送辞とさせていただきます。